

平成28年度 事業報告書（概要）

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

名古屋市中村区亀島2丁目6番10号

学校法人大橋学園

平成28年度 事業報告書（概要） 目次

I. 法人の概要	1
法人情報	
建学の精神と教育理念	
法人の沿革	
設置する学校・学科の入学定員、学生数の状況	2
役員・教職員の概要	
II. 事業の概要	3
法人本部	
精和高等専修学校	5
名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校	1 1
歯科衛生学科	1 3
製菓製パン本科	1 6
別紙	1 9
III. 施設等の状況	2 3
IV. 財務の概要	2 4
資金収支計算書	
活動区分資金収支計算書	2 5
事業活動収支計算書	2 6
貸借対照表	2 7
財産目録	2 8

I. 法人の概要

1. 法人情報

- (1) 法人名称 学校法人大橋学園
(2) 主たる事務所 愛知県名古屋市中村区亀島二丁目6番10号

2. 建学の精神と教育理念

建学の精神 **「地域を支える次世代を社会に送り出す」**

教育理念 **「豊かな人間性と確かな技術 - ユマニテク - 」**

3. 法人の沿革

- 昭和14年（1939年） ■「ツルー洋裁学院」開設
- 昭和24年（1949年） ■各種学校 認可（愛知県）
- 昭和37年（1962年） ■「学校法人精和学園」法人認可
- 昭和51年（1976年） ■「ツルー服装専門学校」専修学校認可（学校教育法改正）
- 昭和61年（1986年） ■「ツルー服装専門学校」を「精和学園服装専門学校」に校名変更
- 平成6年（1994年） ■「精和学園服装専門学校」を「精和学園ファッション専門学校」に校名変更
- 平成15年（2003年） ■「精和学園ファッション専門学校」を「精和学園文化・ファッション専門学校」に校名変更
- 平成16年（2004年） ■「精和学園」を「あいち大橋学園」に法人名変更
- 平成17年（2005年） ■「名古屋ユマニテク歯科医療専門学校」開設
歯科衛生学科／医療専門課程：歯科衛生士養成施設を名古屋市中村区名駅に設置
- 「精和学園文化・ファッション専門学校」を「精和総合文化専門学校」に校名変更
- 学園本部を名古屋市中村区名駅に変更
- 平成22年（2010年） ■「名古屋ユマニテク歯科医療専門学校」学科新增設
製菓製パン本科他／衛生専門課程：製菓衛生師養成施設を設置
- 「ユマニテク歯科製菓専門学校」に校名変更
- 平成23年（2011年） ■「ユマニテク歯科製菓専門学校」を「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」に校名変更
- 平成25年（2013年） ■名古屋市中村区亀島に校地校舎取得及び同校舎改修工事
- 「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」付帯事業 お菓子教室Visage（ヴィサーージュ）を開設
- 平成26年（2014年） ■「精和総合文化専門学校」を名古屋市西区上名古屋より名古屋市中村区亀島へ移転、入学定員を40名から80名に変更

- 平成27年（2015年）
- 精和総合文化専門学校 専門課程「ファッション専科」を廃止
 - 「精和総合文化専門学校」を「精和高等専修学校」に校名変更
 - 「あいち大橋学園」を「大橋学園」に法人名変更
 - 学園本部を名古屋市中村区亀島に変更
 - 「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」歯科衛生学科、製菓製パン本科
職業実践専門課程認定 文部科学大臣(2月19日)

- 平成28年（2016年）
- 「ユマニテク短期大学」幼児保育学科
 - ◇ ユマニテク短期大学設置認可 文部科学大臣(10月31日)
 - ◇ 学校法人組織変更認可 文部科学大臣(10月31日)
 - ◇ 幼稚園教諭二種免許状授与の所要資格を得させるための学科等の課程認定
文部科学大臣(11月28日)
 - ◇ 指定保育士養成施設 指定承認 三重県知事(平成29年3月31日)
 - ユマニテク短期大学 開学(平成29年4月1日)

4. 設置する学校・学科の入学定員、学生数の状況

平成28年5月1日現在

学校	学科	入学定員数	収容定員数	現員数	備考
精和高等専修学校	総合教養学科	80人	240人	204人	
名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校	歯科衛生学科	80人	240人	246人	
	製菓製パン本科	80人	160人	146人	
	製菓マスター科	40人	40人		募集停止中
計		280人	680人	596人	

※製菓衛生師科(通信課程):記載省略

5. 役員・教職員の概要

※(1)(2)平成29年3月31日現在(平成28年10月31日組織変更～)

- (1)役員 理事7人(内、理事長1人)、監事2人
- (2)評議員 15人
- (3)教職員

平成28年5月1日現在

学校	教員			職員			合計
	専任	兼任	小計	専任	兼任	小計	
精和高等専修学校	10人	15人	25人	2人	----	2人	27人
名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校	24人	76人	100人	6人	----	6人	106人
計	34人	91人	125人	8人	----	8人	133人

※平成28年度学校基本調査

II. 事業の概要

法人本部

1. 理事会、評議員会の開催状況

- (1) 理事会開催回数 9回(平成28年3月～平成29年5月)
- (2) 評議員会開催回数 8回(平成28年3月～平成29年5月)

2. 監事による監査状況

- (1) 組織変更認可以前 監事 滝本 永次郎 氏、向井 保 氏
- (2) 組織変更認可以降 監事 西元 勝也 氏、矢野 範子 氏

(3) 監査状況

理事会等に出席する他、関係書類閲覧等の必要と認められる方法及び期中・期末監査を実施

〔会計監査〕

期中1回、期末1回、計2回

会計監査人(独立監査人)との連携協議を含む

〔業務監査〕

期中4回、期末1回、計5回

理事長等からの面談による現況聴取及び設置する学校の現場での実地監査を実施(精和高等専修学校ならびに名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校)の校長及び事務長からの面談による現況聴取、協議、校舎内視察)

〔監査報告書提出〕

平成29年5月23日

3. 私立学校振興助成法に基づく会計監査人(独立監査人)による監査状況

- (1) 監査契約 受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 片山茂則事務所内 公認会計士 久留美 輝晃 氏
- (2) 上記委託審査担当員 公認会計士 伊藤 堯夫 氏
- (3) 監査状況 監査見積(計画)時間数 157時間
監査報告書提出時期 平成29年6月
- (4) 監事との連携 期中1回、期末1回、計2回

4. 重要事項及び契約締結等

地域の要請と期待に応えられる人間性豊かで乳幼児期の教育力と保育力を併せ持った専門職業人材を養成する為、全学を挙げて取り組んでまいりましたユマニテク短期大学の設置計画(平成27年10月、文部科学省へ設置認可申請及び学校法人大橋学園組織変更認可申請/愛知県知事進達)は、平成28年10月末に文部科学大臣より認可を受け、この平成29年4月に開学を迎えることができました。

平成28年度(開設前年度)の設置経費にかかる施設設備整備は、計画通り、契約締結のうえ、履行を完了しました。

(1) ユマニテク短期大学 施設設備整備(設置経費)にかかる契約締結等

(金額単位:円、消費税等込)

契約等の内容	契約先	契約額	支払額(※)	契約期日等
校舎等改修工事 設計監理業務	(株)ネクサス・アソシエーツ	14,580,000	10,206,000	契約:平成27年9月30日 着手:平成27年10月16日 完了:平成28年8月31日
校舎等改修工事	(株)久志本組	432,000,000	432,000,000	契約:平成28年3月24日 着工:平成28年4月1日 完成:平成28年8月31日
教具購入	(株)第一楽器	15,660,000	15,660,000	契約:平成28年6月15日 納品:平成28年9月30日
教具校具備品購入	愛知(株)	65,826,000	65,826,000	契約:平成28年6月24日 納品:平成28年9月30日
教具備品購入	東洋電機(株)	24,462,000	24,462,000	契約:平成28年6月24日 納品:平成28年9月30日 納品:平成29年2月28日
校具備品購入	愛知(株)	2,511,000	2,511,000	契約:平成28年9月16日 納品:平成28年10月21日
講義室増設工事	(株)久志本組	3,456,000	3,456,000	契約:平成28年9月16日 着工:平成28年9月20日 完了:平成28年10月14日
図書等購入	丸善雄松堂(株)	23,265,000	23,265,000	契約:平成28年12月22日 納品:平成29年2月28日
合計		581,760,000	577,386,000	

※平成28年度支払額

(2)「学校法人の寄附行為等の認可申請に係る書類の様式等」(平成6年7月20日文部省告示第117号)に基づく、財産目録の監査契約締結

- ①契約締結期日 平成28年5月20日
- ②監査契約受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 片山茂則事務所内 公認会計士 久留美 輝晃 氏
- ③監査報告書提出 平成28年6月27日

はじめに

教育理念に基づく教育方針及び教育目標を、教育内容・教育活動に十分反映させることができなかった。換言すると、日々の生徒個々に対するさまざまな指導や相談業務に教員の軸足が偏り、学校全体としての指導に一貫性や統一性を欠き、結果、多くの退学者を出してしまった。次年度は、生徒一人ひとりが学校への帰属意識を高め、明るく伸び伸びと学校生活を送ることができるような学校づくりに全力で臨みたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針

ありのままの自分をまるごと受け入れ、何事にもチャレンジしようとする生徒の育成に努める

2. 教育目標

- ①それぞれの能力(学力)に応じた努力ができる生徒の育成
【忍耐力・継続力の育成】
- ②互いのちがいを(個性)を認め合い、思いやりの心を持った生徒の育成
【生命・人権尊重の態度の育成】
- ③自分の考えや思いを、自分に合った方法で表現できる生徒の育成【コミュニケーション能力の育成】

3. 生徒の人材育成像

自己を肯定的に捉え、地域社会に積極的に貢献しようとする人材の育成

4. 入学者に関する受け入れ方針(アドミッションポリシー/求める人材像)

本校の教育方針・教育特色を十分理解したうえで、本校で自分の“夢(将来の目標)”を見つけて一歩でも実現に近づきたいという強い意志と意欲をもった人物

5. 経営方針(教職員の行動指針)

- ①全教職員が共通理解のもと、「夢」を持ち、「個性」を生かし、教職員相互の信頼と敬愛に基づく協働体制のもと、生き生きとした学校づくりに努める。
- ②一人ひとりの生徒を大切に、生徒と共に伸びようとする気持ちと愛情を持って指導にあたる。
- ③保護者(家庭)との連携を密にすることで、学校への不安を緩和し、また、学校への願いや要望を把握することに努める。
- ④一人ひとりが絶えず自己研鑽に励み、自らの専門領域のみならず、総合的な能力のスキルアップを目指す。

II. 2016 年度 (平成 28 年度) 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要及び生徒数

学科名	学年	学級数	定員	実員(※)
総合教養学科	1年	2	80人	68/76人
	2年	2	80人	52/71人
	3年	2	80人	54/57人
合 計		6	240人	174/204人

※H29年3月末/H28年5月1日

(2) 学校運営体制

職 名	氏 名	担 当 (主務内容等)
校長	井上 耕二	担当教科目数 3/計 8時間
教頭	堤 隆芳	担当教科目数 3/計 10時間 ※9~3月まで担任休職により1年B組担任業務代行
専任教員 (常勤講師含む)	鈴木 麻由	学科主任(時間割編成, 講師管理)兼1年A組担任 担当教科目数 3/計 10時間
	堀江 大樹	3年A組担任 担当教科目数 3/計 16時間 (※内 TT8時間)
	山本 千帆里	3年B担任 担当教科目数 4/計 14時間 (※内 TT4時間)
	近藤 寿誉	2年A担任 担当教科目数 3/計 18時間 (※内 TT8時間)
	水谷 公紀	2年B担任 担当教科目数 3/計 12時間
	吉村 彩萌 (※9~3月まで休職)	1年B担任 担当教科目数 3/計 12時間 (※内 TT6時間)
	倉田 桜子 (※7~3月まで休職)	副担任 担当教科目数 3/計 12時間 (※内 TT6時間)
	松岡 茜 (※1月より常勤勤務)	副担任業務
嘱託教員	横井 清彦	広報(渉外主事)、担当科目数 1/計 2時間
非常勤講師	13人(9月~15人) (他実習助手2名)	教科目数 15/計 66時間 (後期~教科目数 19/計 78時間)
事務長	黒田 貴司	事務全般統括
事務	成田 ゆかり	事務全般

▲TT;チーム・ティーチング(実習補助等)

(3) 教育活動・学校行事等の実施状況

月	教育活動(■)	学校行事等(▲)
4	・オリエンテーション(ホームルーム/健康診断等) ・個人面談(中旬～下旬)	
5		○校外研修(岐阜県日本昭和村)
6	・歯科健診 ◎前期中間考査対策勉強会	△3年生進路説明会(+内部進学制度説明)
7	・高等学校スクーリングⅠ ・資格・検定講座(含介護職員初任者研修) ※講座毎に1月まで継続 ・地域ボランティア清掃活動 ・校内研修(教科指導編)	○夏季スポーツ大会[球技大会] ○2年生熊野宿泊研修 ◇体験入学会1 △3年生進路三者懇談会
8	・校内研修(ホームルーム運営編)	◇体験入学会2
9	◎前期末考査対策勉強会 ・高等学校スクーリングⅡ ・特別校外研修(「専門学校をもっと知ろう」) ○3年生テーブルマナー講習	☆防災訓練Ⅰ(防災講話+避難訓練) ○スケート研修(各学年) △前期末三者懇談会 △学校評価アンケート実施(保護者+生徒)
10	○1年生救急救命講習	○文化祭(全校) ◇体験入学会3
11	◎後期中間考査対策勉強会 ・校内研修(生活指導編)	○秋季スポーツ大会[体育祭] ◇体験入学会4・5
12	・地域ボランティア清掃活動 ●前期終了科目追試及び補習	○体験入学会6
1		
2	◎学年末考査前放課後勉強会	◇推薦及び一般入試 ○2年生沖縄修学旅行 ◇二次入試
3	●学年末成績不振者追試+多欠者補習 ・地域ボランティア清掃活動	△学年末三者懇談会

■；◎＝任意参加，●＝当該生徒のみ

▲；○＝教育活動領域，△＝保護者連携領域，◇＝広報(生徒募集)関係領域，☆＝その他

2. 目標と達成計画(重点課題)の達成状況

(1) 数値目標

①退学者数

退学者率 5%以内を目標としていたが、今年度は例年に比べても退学者が多く、退学者率は約 15%となった。特に 2 年生の退学者が多く、年度初めの生徒数 71 名の内、19 名が退学する結果となった。退学の原因としては、人間関係や家庭環境など様々な要因があるものの、こちらの対応のタイミングや方法が適切であったか検証が必要である。

②入学者数

受験者数 120 名、内入学者数 80 名以上(定員充足)を目標としていたが、受験者総数は 87 名(前年比 1 名増、但し推薦受験者は 8 名減)に留まった。結果、80 名が合格となったが、一般併願受験合格者の公立高校への進学により入学者数は 62 名(充足率約 78%)となった。

(2) 教職員(専任教員及び専任職員)の目標の達成度合等に対する自己点検・評価結果

①教育方針・教育目標

評価項目	評価
教育方針・教育目標・育成人材像は定められているか (専修学校高等課程としての特性が明確になっているか)	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学校における職業教育(専門教養)分野の特色は何か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学校の教育方針・教育目標・育成人材像・特色等が生徒・保護者に周知されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学科の目標や育成人材像が、地域社会のニーズに向けて正しく方向づけられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

②学校運営

評価項目	評価
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教務・財務等の組織整備などのシステムは整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

③教育活動

評価項目	評価
教育理念に沿って教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学習到達レベルや学習時間の確保はされているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教育(授業)方法に関して工夫・開発などが行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
インターンシップが体系的に位置づけられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
成績評価・単位認定・進級及び卒業判定の基準は明確か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
資格取得や検定合格に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
人材育成目標達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教職員のスキルアップのための研修が行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
就職率の向上が図られているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

④学習成果

評価項目	評価
資格取得率・検定合格率の向上が図られているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
退学率の低減が図られているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

⑤生徒支援

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
生徒相談に関する体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
生徒＝家庭に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
保護者と適切に連携しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

⑥生徒募集

評価項目	評価
生徒募集活動は適正に行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学納金は妥当なものとなっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

⑦財務

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
財務について会計監査が適正に行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
財務情報公開の体制整備はできているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
法令や専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

⑧法令等の遵守

評価項目	評価
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
自己評価結果を公開しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

⑨その他

評価項目	評価
防災に対する体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
生徒のボランティア活動を奨励・支援しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

※評価が困難な項目については空欄のままとする。

はじめに

学校法人大橋学園は、昭和14年「ツルー洋裁学院」として開校し、「精和学園文化・ファッション専門学校（のち精和総合文化専門学校）」として、女子の社会的自立のための職業教育を基盤として地域社会の発展に寄与してきた、精和学園を引き継ぎ、理事長である大橋正行が新たに「地域を支える次世代を社会に送り出す」を建学の精神として、平成17年（あいち大橋学園）に設置した名古屋ユマニテク歯科医療専門学校 歯科衛生学科（のち名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校）は、開校から12年が経過した。平成22年に併設された製菓製パン本科も7年を経過し、地域の職業教育の一端を担っている。

建学の精神と、「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念に基づき、より高いレベルの「技術教育」と「人間教育」に邁進してきました。

一昨年より、スタートさせた精和高等専修学校との連携教育構想（5ヶ年計画2ヵ年目）の継続を、年度当初に計画するも、現状の両校のニーズと、それぞれの課題から協議の継続を断念した。今後は大きな枠組みの検討から、2年後に新たな展開を実現できるよう、再協議することとした。

平成27年10月に設置認可申請を行ったユマニテク短期大学幼児保育学科は、平成28年10月31日に設置認可を受け、平成29年4月に四日市市に短期大学を開学の運びとなった。

1. 教育方針

(1) 学生の現状と課題をふまえ、学校力（教職員が一丸となり、学生を指導支援する）⇒昨年とは異なり、退学者の低減を図ることができず、増加した(3.8%→6.6%)。特に、近年にない歯科衛生学科1年生の退学者増（6人→15人）に、課題が残る結果となった。教師力（専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする）国家試験については、両学科ともに1名ずつの不合格者がおり、全員合格とはならなかったものの、成績低位の学生に対する底上げ、試験対策において、早期の意識付け、計画的、段階的な指導を行うことにおいて、一定の成果を得ることができた。人間力（学生の豊かな人間性と社会性を養う）昨年同様、歯科衛生学科 臨床・臨地実習、製菓製パン本科 インターシップの指導、職業実践専門課程の取組みにより、早期の就職決定と、業界・団体との連携による今後の定着を図る。

以上の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指すことができた。

(2) 教育活動は、常に学生を中心にP.D.C.A（計画、実践、評価、改善）により、創意を生かした改善活動を行うことができた。

(3) 学生・保護者や地域から信頼される学校、教職員を目指すために、両学科において、行事における地域との関りを深めこと、同様に保護者に対しても、行事を中心に学生の状況報告の機会を増やすことで、コミュニケーションを図ることができ、前年度に比べ保護者の延べ来校者は増加した。

2. 教育目的

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療分野（歯科衛生学科）及び衛生分野（製菓製パン本科）の業界の需要に応え、また、更なる発展に貢献できるよう、本学の教育理念である豊かな人間性と確かな技術をもった有能な人材を育成することを目的とする。

上記目的のため、職業実践専門課程としての意味、意義の理解を教職員全体にさらに深め、浸透させていく必要がある。

3. 自己点検・評価及び学校関係者評価の実施（評価対象事業年度：平成27年度）

専門学校等評価基準に基づき、学校教育活動その他の学校運営の状況について、自己点検・評価を実施しました。この自己点検・評価に基づき、さらに学校関係者評価委員によって課題や反省点、改善点等の検討を行い、教育水準の向上に、教職員一同、努力を傾けていく所存です。

また、職業実践専門課程の学校として、今後も引き続きこの結果を学校ホームページ等で情報公開を行う予定です。

(1) 自己点検・評価 平成28年9月21日

(2) 学校関係者評価 平成29年1月12日

※歯科衛生学科・製菓製パン本科：共通事業

歯科衛生学科

1. 教育方針

実践力のある専門的知識と技術の習得を支援し、学生が自らの目標に向かい学習意欲や態度を培うことが出来るよう学生自身の自立と人間力の構築を目指す。

2. 教育目的

- (1) 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- (2) 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- (3) 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成29年3月31日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	73人	
2年	2	80人	80人	
3年	2	80人	74人	H29.3/13 卒業
計	6	240人	227人	

※別紙1「在籍者・卒業者・退学者・休学者・中退率・留年者数一覧」に過去5年間についても掲載

(2) 平成28年度卒業生等の状況

平成29年3月31日現在

卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者	備考
74人	73人 (98.6%)	74人 (98.6%)	1名専門分野外就業

※1 別紙2「求人者数・就職者数・進学者数・国家試験受験関連一覧」に過去5年間についても掲載

※2 別紙3「平成28年度就職先一覧」参照(国試不合格者も助手で就職)

(3) 学生支援

①クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

・個人面談

1年生に対し、学生が逸早く学校生活に馴染める様、早期に学生個々の生活、学習状況、環境を理解することを目的として、入学後4～5月にかけて担任教員との面談を行いました。前期終了時までの退学者が多く出る結果となってしまった。学生の抱える問題が学習、実習への個々へのサポートを担当教員以外の教員も含め授業時間外にも行うことで、後期の退学者は無く各クラスの状況も落ち着いていったように感じる。結果として全学年合計19名の退学者となった(昨年度は8名)。

・保護者面談

8～9月、2～3月(必要な場合は随時)に学生個々の状況に応じて、学科評価、生活状況についての理解をしていただく為に面談を行ってきました。また、家庭との連携を図ることを目的として、僅かな気になるところがあれば速やかに連絡を取りその後の対応を共に考えるようにしてきました。

②国家試験対策の強化

- ・3年生4月より、学外(業者主催)模擬試験を7回実施し、臨床実習期間中は分野別学内確認試験を繰り返すことで知識定着を目的に反復指導を行っています。臨床実習終了後の11~12月には各講師による国家試験対策集中講座や総合基礎講座実施後は、国家試験に準じる形式の卒業試験で総合的な学習力の評価をし、のちは学習計画を個々に検討し、総括学習としています。
- ・学習低迷者への対応は、4月からの学習状況により、担任、科目担当者が課題指示、面談を繰り返し、行って基礎力のアップを目指しました。全教員が学習低迷者を受け持ち、反復学習を毎日繰り返しましたので、全体の学習レベルは底上げを図ることが出来たと感じます。しかし、対策学習を行う期間が長丁場になり、モチベーションの維持が成績上位者にとっても難しい問題であったと感じました。

③学生教育の充実を考慮した基礎実習室の有効活用

技術習得・定着のための実技訓練、試験は段階的に期間、内容項目を担当教員間で十分に検討を重ね、指導内容の共通を図りました。1・2年生合同による相互実習や「歯科予防処置」と「歯科診療補助」をミックスした臨床現場を想定した総合実習、学生の自学訓練等は、現場実践対応力に繋がったと考えます。

(4) 社会貢献・地域貢献

①地域歯科保健活動

歯と口の衛生週間には、地域行政が開催した住民への様々なライフステージ(母子、成人、高齢者)に対する保健指導、歯科検診、フッ化物塗布、相談等の活動へ参加しました。集団指導では、学生が作製した幼児期・学齢期に対する媒体を実施指導も行い、直接にコミュニケーションがとれたと考えます。また、各地域では他職種との連携や協働による住民対応を経験出来、地域活動の重要性を学び取ることが出来たと考えます。

- ・名古屋市(中村区、西区、昭和区)「歯と口の一日健康センター」平成28年6月2日
- ・大府市「おおぶWELL 噛む健康祭」平成28年5月22日
- ・東海市「歯の無料健と相談 フッ素塗布」平成28年6月5日

②職業認知啓蒙活動

口腔保健啓蒙を目的に職能団体主催のイベントに参加しました。

- ・東山動物園(千種区)の来場者対象のイベント 平成28年11月3日
- ・昭和区民まつり 平成28年10月23日

(5) 学生研修・臨床実習

①病院見学

学内で学んだ知識を専門領域ごとに施設・設備・患者様への対応等について院内見学をしました。

専門性の高い現場での歯科衛生士の業務を見学し、この実習から900時間に及ぶ臨床実習が始まる。

- ・愛知学院大学歯学部附属病院見学実習 平成28年10月5日・12日

②海外研修

・現地ハワイで活躍する日本とのダブルライセンスを持つ歯科衛生士より、アメリカの歯科医療事情セミナーの受講や今年度より医療現場(クリニックや保健施設)をグループごとに見学し、医療従事者ともディスカッション、レクチャーを受けることが出来たことは、歯科衛生士への目標構築に繋がったと思います。また、ハワイの文化、風土に触れ、グローバルな視野を養うことも出来たと思います。

・ハワイ研修旅行 平成28年11月13日～18日

③臨床・臨地実習

3年生は4月22日から11月4日までの78日間(540時間)、2年生は11月7日から2月24日までの52日間(360時間)他、学外実習を行いました。

・実習施設

歯科医院・診療所(55施設)、病院・医療センター(8施設)・幼稚園(2園)・高齢者施設(1施設)・口腔衛生センター(1施設)・小学校(3校)・支援学校(1校)

(6)教職員研修

①教職員研修(学園主催)

新人マナー研修や学校法人会計研修等へ参加しました。

学内では、学生の能動的学修法を活用した授業運営方法や学生指導法の研修を教育関係者を招いて行っています。

②教員研修・学会参加(専門技術研修)

歯科衛生学教育のカリキュラム構築の方法を、技術・知識面に於いて研鑽し、学生教育に反映していく。

- ・歯科衛生士専任教員講習会Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ受講、研修会受講(全国歯科衛生士教育協議会)
- ・学術大会(日本歯科衛生教育学会)参加

(7)主な施設設備の整備実績

当年度の主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
実習機器(超音波スケーラー、バキューム装置他)修繕	495千円
計	495千円

※金額:千円未満四捨五入表記

1. 教育方針

学生の現状と課題をふまえ、学校力(教職員が一丸となり、学生を指導支援する)、教師力(専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする)、人間力(学生の豊かな人間性と社会性を養う)の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指す。

2. 教育目的

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人(パティシエ、ブーランジェ)を養成することを目的とする。

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成29年4月30日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	63人	
2年	2	80人	76人	H29.3/13 卒業
計	4	160人	139人	

※別紙1「在籍者・卒業者・退学者・休学者・中退率・留年者数一覧」に過去5年間についても掲載

(2) 平成28年度卒業生等の状況

卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者	備考
76人	75/76人 (98.7%)	67人 (88.2%)	1名進学、3名分野外、 3名内定辞退等

※1 別紙2「求人者数・就職者数・進学者数・国家試験受験関連一覧」に過去5年間についても掲載

※2 別紙3「平成27年度就職先一覧」参照

(3) 学生支援(学生の人材育成像に基づいた取り組みの強化)

「人間性指導」「技術指導」「資格取得指導」を卒業時の全学生に対する到達目標として指導にあたり、本学科卒業生は、この点は確実であると自他ともに自信をもって認めることができる教育を目指して取り組みました。

①クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

近年の学生は価値観や志向が多様化しているため、画一的な指導では対応が不十分となるため、定期的に、また状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視しています。

また、学生の進路選択は、保護者の意向が反映される要素もあり、特に「就業先」は、学生と保護者との意向が異なるケースが増えてきているため、保護者会を開催したり、保護者との「個別」面談を行い、就業先の業界理解を促進し、学生にとってより良い進路決定に繋がるように取り組んでいます。

②国家試験対策の強化(教科目授業の充実、課外授業、リカレント講習)

本学科は、国家資格である製菓衛生師の在学中取得に有効なカリキュラムを編成していますが、平常時より、授業教科目に対する学生の理解度を計るための定期小テストとその結果に応じた反復補習(課外)を徹底することで基礎力養成を支援し、8月には国家試験対策講座を開講して国家試験対策の強化に努めています。また、愛知県のみならず、他府県実施の国家試験も受験可能とし、希望者には個別指導も実施することで高い合格率へと繋がりました。

③将来像と目的の具現化

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、活躍「したい」業界は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくありません。

本学科は、できるだけ多くの、様々な業界店舗を学生自身が歩き、自分の目で見て、自分がそこで「働いている姿」を想像し、個々が想像(イメージ)したことを画いてみる(文字にする)ことで、「具体的な将来像」へ繋げていくことを目的として、学生の長期休業期間には、実店舗見学(レポート提出)を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めています。

(4)社会貢献・地域貢献(学科祭等行事開催による地域交流)

①「セイカ(製菓)展」平成28年10月29日、30日

学生の日頃の学習と技術習得の“成果”とお菓子の“製菓”をかけあわせ、例年、学科祭として「セイカ展」を開催しています。地域貢献の一環として、開放した校舎内で洋菓子・和菓子・パンの販売提供や来場者に対するお菓子作りの体験実習などを行い、本学及び本学科の教育活動への理解を深めていただく機会としています。

②「保護者感謝会」平成29年2月18日

1年間の集大成として、日頃より支え続けている保護者への披露と感謝をこめて実施。2年生は自らの保護者と1年生に対して製品を提供し、保護者への感謝と在学生へのエールを込めて取り組みます。

(5)学生研修及び技術コンテスト、インターンシップ等

①中部洋菓子技術コンテスト 平成28年8月24日

東海地区の専門学校生や洋菓子店の職人が集まり、技術を競い合う年1回開催のコンテスト大会
マジパン部門:学生の部

本学科2年生 学生部門1位を始めとして、多数の学生が入賞

②レ・エスポワール・デ・アンバサドル 平成28年10月4日

世界大会の日本代表のアシスタント選考を兼ねるプロの若手パン職人も出場するコンテストへ学生として肩を並べて出場。

本学科2年生 1名が東京本選へ進出

③東京研修 平成28年10月11日、12日

一日目はコンテストの全国大会である「ジャパンケーキショー」を見学し、様々なレベルの高い作品を見ることで感性を養い、二日目は、国内の情報発信都市である東京で流行している洋菓子店やパン屋などの実店舗を見学しました。

④海外研修 平成28年11月27日～12月2日

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルに 6 日間滞在し、現地の菓子学校で技術を学び、自主性を重視した研修内容にて、異文化に触れ、感性を磨きました。

⑤インターンシップ 平成28年4月13日～26日

2年生の5月頃からの本格的に就職活動に備え、製造現場や販売現場での実習(労働体験)を行うことで、より就職活動への意識を高め、就業先選択のミスマッチを無くすことを目的に実施しています。

(6)教職員研修

①教員研修

学校内での学生への指導が主な業務であるため、現場のトレンドや流行、最先端の技術に疎くなりがちですので、常に新しい技術や知識、トレンドを理解することで学生への指導力を上げることを目的として、外部開催の技術講習や講演会などに参加しています。また、学内においても、教育関係者を招いて進路指導方法の講習会などを行いました。

②教職員研修(学園主催)

新人マナー研修、教育関係者を招いての講演・研修、学校法人会計研修等に参加

(7)主な施設設備の整備実績

当年度の主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
情報機器等 更新整備(職員用)	306千円
施設内補修営繕工事	351千円
計	657千円

※金額:千円未満四捨五入表記

<別紙1>

在籍者・卒業者・退学者・休学者・中退率・留年者数一覧
 (平成24年度～28年度の設置学科等について)

① 在籍者数 (各年5月1日現在)

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	211	239	236	239	246
製菓製パン本科	126	155	128	133	146

② 卒業者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	45	71	77	73	74
製菓製パン本科	39	72	67	50	76

③ 退学者数 ※H29.3/31 現在として

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	13	14	7	8	19
製菓製パン本科	11	14	8	6	8

④ 休学者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	2	3	3	1	1
製菓製パン本科	2	0	0	1	1

⑤ 中退率

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	6.16%	5.86%	2.97%	3.35%	7.72%
製菓製パン本科	8.73%	9.03%	6.25%	4.51%	5.48%

<別紙2>

求人者数・就職者数・進学者数・国家試験受験関連一覧

(平成24年度～28年度の設置学科等について)

① 求人者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	960	1093	1200	1170	1300
製菓製パン本科	412	716	555	970	1249

② 就職者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	45	70	76	72	74
製菓製パン本科	25	68	65	46	76

③ 進学者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	0	0	1	1	0
製菓製パン本科	1	1	1	0	1

<国家試験関連>

① 受験者数 (在籍学生数)

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	45	71	77	74	74
製菓製パン本科	39	73	67	52	76

② 合格者数

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	45	71	77	74	73
製菓製パン本科	33	62	47	48	75

③ 合格率 (%)

学科	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歯科衛生学科	100	100	100	100	98.6
製菓製パン本科	84.6	84.9	70.1	92.3	98.7

<別紙3>

平成28年度 就職先一覧

<歯科衛生学科>

●自治体職員

津島市職員（津島市保健センター）

●病院

医療法人社団松和会 池上総合病院

さくら総合病院

●歯科医院等

まなべ歯科クリニック、うへの歯科クリニック、らいん歯科、市之倉たまおき歯科
いのうえ歯科クリニック、片木歯科医院、川口歯科医院、森川歯科クリニック、関歯科医院
アベ歯科クリニック、やまむら歯科、増田歯科医院、あかさか歯科医院、小林歯科クリニック
エムデンタルクリニック、助光デンタルクリニック、松年歯科クリニック、しもて歯科
ノエルデンタルクリニック、タカミ歯科、いとう歯科、ひろ歯科クリニック、やまだ歯科
フローラル歯科クリニック、前田デンタルクリニック、さかいファミリー歯科、さわだ歯科
わだち歯科クリニック、新安城歯科、ふじい歯科、山内歯科医院、かわい歯科医院
おくだ歯科、はみんぐケア歯科クリニック、前山歯科、まさみ歯科、たつた歯科クリニック
徳倉歯科口腔外科・矯正歯科、エスカ歯科・矯正歯科、ももの木歯科、岡戸歯科医院
丘の上歯科医院、岩川歯科医院、アップロード・デンタルクリニック、ういち歯科
よこい歯科、プルチーノ歯科・矯正歯科、小島歯科医院、とむ歯科クリニック
たなべ歯科クリニック、とも歯科こども歯科

<製菓製パン本科>

●洋菓子店

ミュゼドゥアッシュ、エルフラット、野うさぎ、プチアマンド、ナチュラル、シトロンヴェール
サロンドボヌール、ドゥクールショコラ、こんま亭、しゃん亭、パティスリーアングレーズ
ル・スリジェダムール、パルム、レニエ、プラスワズホーム、パティスリーループ、プーコニュ
グランクレールムツミ店、ココット、ガトーヴァレ、ジークフリーダ、フランセヤノ、ハーブス
エルダンジュ、プチフレーズ、モンボワ、プレジィール、スイーツガーデン、ダウニー
エイムエンタープライズ、フィレンツェ、ミストラル、ひらまつ、セルフイーユ、ベルクリエイト
菓子畑、テラテール、ブローニュの森、パティスリーサリュエ、カンツバキ、しゃん亭
ソレイユブラン、シャンティヒラノ、ル・スリジェダムール、ドゥブルベボレロ、ベーレン
ブルブル、ガレドゥワタナベ、ロマーリア、ラストィコツォ

●ホテル等

ナゴヤキャッスル、ホテルアークリッシュ豊橋、三河湾リゾートリンクス

●パン工房

グルマンマルセ、日本デリカフレッシュ、パンのトラ、Le supreme、ベーカーマン、
一宮リトルマーメイド、櫻蔵、ボンパナ、ブーランジェリーヨシオカ

●和菓子店

餅惣

●カフェ

アメリカカフェ・サンマルク、ペリカン

●その他（ブライダル等）

ベストプランニング、ベルコ

Ⅲ. 施設等の状況

施設(土地・建物)の状況は以下の通りです。

1. 土地

種別	所在地	地番	面積〔㎡〕	備考
校舎敷地	三重県四日市市 南浜田町	13番	2,373.91	※
	愛知県名古屋市中村区 名駅二丁目	3302番1	831.25	名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目	605番	484.92	名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 精和高等専修学校
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目	604番	145.11	
	小計			3,835.19
山林	岐阜県郡上市高鷲町鷲見 字上野	5189番47	991.00	運用財産
合計			4,826.19	

2. 建物

種別	所在地	構造	延床面積〔㎡〕	備考
校舎	三重県四日市市 南浜田町13番地	鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建	3,702.39	※
	愛知県名古屋市中村区 名駅二丁目3302番地1	鉄骨・鉄筋コンクリート造 陸屋根地下1階付8階建	3,317.35	
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目605番地、604番地	鉄骨・鉄筋コンクリート造 陸屋根7階建	2,517.83	
合計			9,537.57	

※ユマニテク短期大学(平成29年4月開学)

校舎延床面積 3,702.39㎡ (内. 校舎面積3,194.79㎡ 内. 校舎内体育館面積507.60㎡)

IV. 財務の概要 —平成28(2016)年度 決算の概要—

1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、平成28年度会計の教育事業活動等に附随する全ての収入と支出の内容、ならびに当該会計年度における資金の収入と支出の状況と支払資金(現預金)の顛末を明示したものです。収入の部は「当期収入＋前年度繰越支払資金＝収入の部合計」、支出の部は「当期支出＋次年度繰越支払資金＝支出の部合計」で、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

当年度の収入の部合計は前年度繰越支払資金を含めて2,166,704,903円、支出の部合計は次年度繰越支払資金1,074,312,642円を含めて、収入の部合計と一致する2,166,704,903円となっています。

資 金 収 支 計 算 書

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	579,922,000	586,201,050	△ 6,279,050
手数料収入	8,697,000	6,954,410	1,742,590
寄付金収入	8,050,000	8,050,000	0
補助金収入	46,240,000	46,467,450	△ 227,450
資産売却収入	3,374,726	3,463,113	△ 88,387
付随事業・収益事業収入	9,300,000	9,275,862	24,138
受取利息・配当金収入	1,040,000	974,718	65,282
雑収入	27,222,000	28,207,323	△ 985,323
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	386,334,000	286,126,500	100,207,500
その他の収入	14,254,784	12,432,654	1,822,130
資金収入調整勘定	△ 295,090,750	△ 297,202,686	2,111,936
前年度繰越支払資金	1,475,754,509	1,475,754,509	
収入の部合計	2,265,098,269	2,166,704,903	98,393,366
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	276,305,000	271,561,419	4,743,581
教育研究経費支出	108,650,000	104,708,229	3,941,771
管理経費支出	117,594,000	112,822,023	4,771,977
借入金等利息支出	2,300,000	2,037,527	262,473
借入金等返済支出	26,662,000	26,662,000	0
施設関係支出	445,662,000	445,662,000	0
設備関係支出	132,796,000	132,397,845	398,155
その他の支出	13,575,303	12,595,413	979,890
[予備費]	12,500,000		12,500,000
資金支出調整勘定	△ 20,615,630	△ 16,054,195	△ 4,561,435
翌年度繰越支払資金	1,149,669,596	1,074,312,642	75,356,954
支出の部合計	2,265,098,269	2,166,704,903	98,393,366

2. 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

(単位:円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	586,201,050
		手数料収入	6,954,410
		特別寄付金収入	8,000,000
		一般寄付金収入	50,000
		経常費等補助金収入	46,467,450
		付随事業収入	9,275,862
		雑収入	28,207,323
		教育活動資金収入計	685,156,095
	支出	人件費支出	271,561,419
		教育研究経費支出	104,708,229
		管理経費支出	112,702,023
		教育活動資金支出計	488,971,671
		差引	196,184,424
	調整勘定等	4,641,144	
	教育活動資金収支差額	200,825,568	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金額
	収入	施設整備等活動資金収入計	0
	支出	施設関係支出	445,662,000
		設備関係支出	132,397,845
		施設整備等活動資金支出計	578,059,845
		差引	△ 578,059,845
		調整勘定等	△ 1,063,072
	施設整備等活動資金収支差額	△ 579,122,917	
	小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 378,297,349	
その他の活動による資金収支	科 目		金額
	収入	有価証券売却収入	3,463,113
		預り金受入収入	1,597,870
		小計	5,060,983
		受取利息・配当金収入	974,718
		その他の活動資金収入計	6,035,701
	支出	借入金等返済支出	26,662,000
		修学旅行預り金支払支出	143,544
		仮払金支払支出	106,064
		差入保証金支払支出	111,084
		小計	27,022,692
		借入金等利息支出	2,037,527
		その他の活動資金支出計	29,060,219
	差引	△ 23,024,518	
	調整勘定等	0	
	その他の活動資金収支差額	△ 23,024,518	
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 401,321,867	
	前年度繰越支払資金	1,475,754,509	
	翌年度繰越支払資金	1,074,312,642	

3. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書に相当し、事業活動収支の内容と均衡状態を明示したものです。特殊性を除いた企業会計や一般的な損益収支差額に相当するのは、経常収支差額に特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額にあたり、当年度は143,075,153円となっています。

事業活動収支計算書

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

(単位:円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	579,922,000	586,201,050	△ 6,279,050
		手数料	8,697,000	6,954,410	1,742,590
		寄付金	8,050,000	8,050,000	0
		経常費等補助金	46,240,000	46,467,450	△ 227,450
		付随事業収入	9,300,000	9,275,862	24,138
		雑収入	27,222,000	28,207,323	△ 985,323
		教育活動収入計	679,431,000	685,156,095	△ 5,725,095
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	276,305,000	271,561,419	4,743,581
		教育研究経費	156,571,000	152,628,190	3,942,810
		内. 減価償却費	47,921,000	47,919,961	1,039
		管理経費	121,639,000	116,841,637	4,797,363
		内. 減価償却費	4,045,000	4,019,614	25,386
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計		554,515,000	541,031,246	13,483,754	
教育活動収支差額		124,916,000	144,124,849	△ 19,208,849	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	1,040,000	974,718	65,282
		その他教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計		1,040,000	974,718	65,282
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	2,300,000	2,037,527	262,473
		その他教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計		2,300,000	2,037,527	262,473	
教育活動外収支差額		△ 1,260,000	△ 1,062,809	△ 197,191	
経常収支差額		123,656,000	143,062,040	△ 19,406,040	
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	13,000	13,113	△ 113
		その他の特別収入	0	0	0
	特別収入計		13,000	13,113	△ 113
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計		0	0	0	
特別収支差額		13,000	13,113	△ 113	
〔予備費〕		12,500,000		12,500,000	
基本金組入前当年度収支差額		111,169,000	143,075,153	△ 31,906,153	
基本金組入額合計		△ 846,043,000	△ 846,040,723	△ 2,277	
当年度収支差額		△ 734,874,000	△ 702,965,570	△ 31,908,430	
前年度繰越収支差額		961,503,026	961,503,026	0	
翌年度繰越収支差額		226,629,026	258,537,456	△ 31,908,430	
(参考)					
事業活動収入計		680,484,000	686,143,926	△ 5,659,926	
事業活動支出計		569,315,000	543,068,773	26,246,227	

4. 貸借対照表

貸借対照表は、企業会計でも、その他学校法人を含めた公益法人会計でも、基本的に同じで、決算日(3月31日)における財政状態を表し、学校会計においては、基本金と繰越収支差額が純資産を構成しています。

総資産額3,790,710,841円、総負債額550,163,001円、正味財産3,240,547,840円、負債率(「総負債額」÷「総資産」額)は約7%となっています。

貸借対照表

平成29年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,712,308,781	2,189,527,427	522,781,354
有形固定資産	2,711,995,085	2,185,874,815	526,120,270
土地	877,685,167	867,353,641	10,331,526
建物	1,620,382,553	1,242,746,796	377,635,757
構築物	24,006,195	2,227,204	21,778,991
その他	189,921,170	73,547,174	116,373,996
その他の固定資産	313,696	3,652,612	△ 3,338,916
流動資産	1,078,402,060	1,487,204,923	△ 408,802,863
現金預金	1,074,312,642	1,475,754,509	△ 401,441,867
その他	4,089,418	11,450,414	△ 7,360,996
資産の部 合計	3,790,710,841	3,676,732,350	113,978,491
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	213,324,000	239,986,000	△ 26,662,000
長期借入金	213,324,000	239,986,000	△ 26,662,000
流動負債	336,839,001	339,273,663	△ 2,434,662
短期借入金	26,662,000	26,662,000	0
前受金	286,126,500	294,090,750	△ 7,964,250
その他	24,050,501	18,520,913	5,529,588
負債の部 合計	550,163,001	579,259,663	△ 29,096,662
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	2,982,010,384	2,135,969,661	846,040,723
繰越収支差額	258,537,456	961,503,026	△ 702,965,570
翌年度繰越収支差額	258,537,456	961,503,026	△ 702,965,570
純資産の部 合計	3,240,547,840	3,097,472,687	143,075,153
負債及び純資産の部合計	3,790,710,841	3,676,732,350	113,978,491

5. 財産目録

財産目録

平成29年3月31日

I 資産総額	3,790,710,841 円
内 基本財産	2,712,006,941 円
内 運用財産	1,078,703,900 円
II 負債総額	550,163,001 円
III 正味財産	3,240,547,840 円

区分	金額
資産	
1. 基本財産	
土地	3,835.19㎡ 877,383,327 円
建物	9,537.57.㎡ 1,620,382,553 円
構築物	24,006,195 円
教具・校具・備品	156,624,570 円
図書	33,296,600 円
その他	313,696 円
2. 運用財産	
現金預金	1,074,312,642 円
その他	4,391,258 円
資産総額	3,790,710,841 円
負債	
1. 固定負債	213,324,000 円
長期借入金	213,324,000 円
2. 流動負債	336,839,001 円
短期借入金	26,662,000 円
前受金	286,126,500 円
その他	24,050,501 円
負債総額	550,163,001 円
正味財産(資産総額－負債総額)	3,240,547,840 円